

# 2018年度春学期集中講義「外からみた日本」

本年度春学期の集中講義「外からみた日本」は、韓国の韓信大学日本学科教授の河棕文（하종문）先生が担当されました。講義の内容は以下の通りです。

- 2015年度の韓国、日本、アメリカの高校の歴史教科書を素材に「原爆投下の是非について」の討論
- 零戦設計者の堀越二郎を主人公とした宮崎駿監督の「風立ちぬ」から見た大衆文と歴史
- 日韓の間にある歴史認識の重要な問題の一つである日本軍「慰安婦」問題
- BBCが放送した伊藤詩織氏の強姦被害を取材した「Japan's Secret Shame（日本の秘められた恥）」を素材とした「ジェンダーから見る日韓」
- 日本の「武士道」の実体
- 「在日」と日本・韓国
- 韓国人の立場から「日本の憲法改正」をどう見るか？

履修者は30名を超えましたが、その中から2名の学生に受講の感想を寄せてもらいました。

## ■ 北村愛美（本学科2年）

私はこの集中講義を受けて日韓関係で大きく取り上げられる慰安婦問題や日本の戦争に対する理解を深めて今の時代だからこそ、これを機に歴史と真剣に向き

合い、真実を話していく必要があるのではないかと考えさせられる機会でした。

従軍慰安婦問題をお金で解決するのではなく、日本側が一刻も早く慰安婦の方々に会いに行き、歴史を隠さず話をして認めることだと思います。そして日本が戦争の被爆国として、今の私たちがこの先どのように伝えていくのか改めて考えました。

## ■ 木梨萌乃（本学科2年）

集中講義を受けてみて、最初はひたすら韓国の文化や歴史について学ぶ授業だと思っていましたが、慰安婦問題や戦争・女性差別問題など、一つ一つ問題を取り上げて、それについてみんなで意見交換をするという授業スタイルでした。私は慰安婦問題などはテレビでのニュースでしか情報が得られていなかったために、韓国と日本だけの問題と認識していました。しかし慰安婦問題というのは歴史的にみると大きな問題であるということを知ることができました。今までほかの授業のなかで戦争やジェンダー、在日問題などを勉強したことがありませんでしたが、この講義でまた別の視点でこれら問題について考えることができたなと思いました。

# 中国での留学生活について

本学科4年 鳥羽 菜摘

私は大学3年の9月から4年の7月まで約10ヶ月間留学をしました。好きな中国語をもっと身につけたいと思い、留学に行くことを決意しました。中国に留学へ行ってからは中国人の学生と語学パートナーとして会話の練習をしたり、積極的に外国人とコミュニケーションの機会を増やすよう意識しました。また現地で中国人に日本の文化を教える授業のボランティアをしたり、語学力の強化と共に日本に対しての理解も深まりました。

ですがその中で困難だったこともたくさんありました。それはタクシーに乗ったときに運転手とコミュニケーションをとることが難しかったことです。来た当初は中国人の話すスピードに慣れておらず、なんて言っているのか分からず、とりあえず自分が話したいことを話すのがやっとという感じでした。まずは慣れることが一番なので私は日々の生活で工夫をし、中国語に慣れることに徹底しました。すると数ヶ月後には中国語の環境に慣れ、最初と比べコミュニケーションをとることが難しくなくなりました。

私はやり遂げると決めたことはきちんとこなし、また留学することにより身についた行動力は自信に繋がり、語学力以外にも留学先で知り合った世界中の友達は一生の宝物になりました。留学に比べて本当に良かったです。

